

全日本けん玉道選手権大会の変動種目における技の解説と注意事項

～ 2024 年開催 第 46 回大会変動種目 ～

⑪まさかり

【持ち方】

玉の持ち方

【技の動作】

一方の手で玉を持ち、他方の手でつり下げたけんを持って構える。けんを放して玉を動かしてけんを引きあげ、玉の穴を利用して玉の上に大皿の縁を乗せて玉にけん（けん先は不可）を接触させた状態で静止させる。けん及び体の動きを少なくとも 3 秒静止させること。

【注意事項】

- ・ けんの引き上げ方は、前振りでもうら振りでも可とする。
- ・ 「一回転まさかり」にならないこと。また、「たけうま」にならないこと。
- ・ 玉の上にけんを乗せる際「小皿の縁」を乗せてはならない。
- ・ 玉の上にけんを乗せた時のけん先の向きは問わない。
- ・ 玉とけんの間糸がはさまった場合は可とする。
- ・ まさかりを完成させた後、主審の「成功」の合図（挙手）があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- ・ けんが玉を持つ手或いはその他の体・物に触れた場合は失敗とする。
- ・ 手でけんを持って体を一旦静止させて構えた後、けんを振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・ けんを手で持たないで一旦体を静止させ構えた後、けんを前後に振るなどの予備動作を始めた時点で技が開始されたと見なす。
- ・ 技を開始した後に、再び手でけんを押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

補足説明

- ・ 大皿の縁のみを使用します。小皿の縁は認めません。
- ・ けんが指に触れていないことを審判にしっかりアピールできるように、特に予選のときには体の向きを工夫して下さい。

## ⑫つるしうらふりけん

### 【持ち方】

つるし枝の持ち方

二本の指で糸の中程を持ち、けん玉をつるす（右利きの場合：左に玉、右にけん）。

持ち替え後の持ち方：とめけんの持ち方に準じる持ち方

### 【枝の動作】

糸の中程を持ち、けん玉を下につり下げて構える。つり下げたけん玉を糸を使って手前に振り出し、糸を引いて玉を向こう側に1回転させ、糸を離してけんをつかみ、玉の穴にけん先を入れる。

### 【注意事項】

- ・けん玉をつるした時、糸を指に掛けてはならない。また、糸を余らせてつまんではならない。
- ・技は片手で行うこと（つるした手でけんをつかむこと）。
- ・動作中けん又は玉の一部でも、肩幅の範囲から外に出ないこと。
- ・糸を離してからけんをつかむ間、回転の有無などけんの動きは問わない。
- ・玉の穴にけん先が完全に入ること。
- ・けんをつかんだ時、皿胴をつかんではならない。
- ・つるしたけん玉を手前に振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとる、けん玉を前後に振り始めるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・けん玉を手前に振り出すなど技を開始した後に、けん玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

### 補足説明

- ・けん玉をつるす構え方は、つるしとめけんと同じです。（右利きの場合：左に玉、右にけん）
- ・糸を離してからけんをつかむまで、玉は向こう側に1回転していますが、けんは玉と同じく向こう側に1回転していても、まったく回転していなくても、その動きは問いません。